


竹原市 収 受
竹 第 号
28.5.-6
受理期間 月 日
登録番号 保存年限



資料様式第3号

平成28年 5月6日






議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 井上 美津子 

視察・調査場 所	大阪市東淀川区東中島1-18-22 丸ビル別館
期 日	平成28年4月25日
経 費	48,840円
参加者氏名	井上美津子
視察・調査目 的	一般社団法人 行政改革推進協会主催 「教育行政基礎講座」 講師 一般社団法人 家庭教育支援センターペアレンツキャンプ 代表理事 水野達朗氏のセミナーを受ける。
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	◎新たに始まった新教育委員会制度とは ～議員として押さえておきたい教育委員会の組織論と現実論～ ○教育委員会制度の歴史 ○新教育委員会制度とは ○教育委員会の原状解説 ○教育委員会が解説する議会質問のチェック点 ◎「小中一貫教育」と「チーム学校」の要点と解説 ～最新議論！未来を作る教育のための論点をおさえよう～ ○小中一貫教育の概要 ○小中一貫教育の課題と展望 ○チーム学校の概要 ○チーム学校の課題と展望 ○「次世代の学校・地域」創生プラン ～学校と地域の一体改革による地域創生～
効果・成果 等	新教育委員会制度や「小中一貫教育」・「チーム学校」について 研修して、今後の一般質問などの議会活動に生かしていければと 考えております。

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

竹原南収受
竹第号
29. 2. -6
延滞期間 月 日
分類記号 保存年限

議長	副議長	局長	局長補佐	次長	係長	局員
						

27-清

資料様式第3号

平成29年 2月 6日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 井上 美津子



視察・調査場所	東京都中央区八丁堀 アットビジネスセンター東京駅八重洲通り 兵庫県神戸市中央区 人と防災未来センター
期 日	平成29年 1月17日 ~ 平成29年 1月18日
経 費	79,720円
参加者氏名	井上 美津子
視察・調査目的	地方議員研究会主催「公共施設の問題点」の講義を受けるとともに、神戸市の人と未来防災センター見学することにより今後の一般質問や議会活動など生かします。
内 容 (視察先の現状、竹原市との比較等)	公共施設マネジメント1 財源問題としての取り組み 東洋大学客員教授 南 学 ・「時限爆弾」としての公共施設 ・「白書」以後の一般的課題 ・公会計改革との結合 公共施設マネジメント2 「拡充」から「縮充」へ機能ベースの帰結再編成 東洋大学客員教授 南 学 ・公共施設の役割を再検討する ・「直営 vs 民間」の不毛な対立 ・公共施設の包括管理のインパクト 人と防災未来センターの見学
効果・成果等	公共施設マネジメントのセミナーを受講してこれからの公共設の在り方を研修しました。また、人と防災未来センターを見学して、阪神・淡路大震災の経験と教訓を伝え、防災・減災社会の実現のための知識を学びました。

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。


竹原市収受
竹 第 号
29. 2. 13
発着期日
月 日
発着記号
保存年限

資料様式第3号

議長	副議長	局長	局長補佐	次長	係長	局 員
						

平成29年 2月 13日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 井上 美津子 

視察・調査 場 所	広島市中区基町6-3.6. メルパーク広島 桜の間
期 日	平成29年 1月21日
経 費	3,660円
参加者氏名	井上 美津子
視察・調査 目 的	情報モラルセミナーin広島のセミナーの受講
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	<p>情報モラルセミナーin広島</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開会あいさつ・セミナー趣旨説明 ○基調講演 「新学習指導要領に向けた教育改革の動向と情報モラル」 文科省初頭中小教育局 新津 勝二 ○情報モラル教育の実践 「情報モラル指導カリキュラム表に沿った教材開発」 広教 吉野 真理子 <p>パネルディスカッション「日常的な情報モラル指導の実際」 コーディネーター 高橋 純 パネリスト 西田 光昭・前川 健治・重政 昌子 月田 清乃</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総括講演 「これからの情報社会を生き抜く力を育てる」 東北大学大学院情報科学研究科 教授 堀田 龍也
効果・成果 等	子どもたちが安全・安心にインターネットやスマートフォンと付き合うための指導方法を探り、子供だけでなく私たち大人も情報モラル教育が必要であることがわかりました。

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。